

疫学研究・臨床研究に関する情報の公開について

研究課題名

経尿道的膀胱腫瘍切除術における 5-アミノレブリン酸内服下光力学的診断併用時の循環動態に関する研究

研究計画

(1) 背景・意義

経尿道的膀胱腫瘍切除術 (TUR-BT) に 5-アミノレブリン酸内服下光力学的診断 (5-ALA-PDD) を併用すると病変の検出率が向上するという利点があります。当院でも開始されて 2 年程になります。副作用には、肝機能障害や日光過敏症等に加えて、一時的に低血圧になる場合があることが分かって来ました。低血圧の程度や頻度および関連因子に関する報告は、まだ多くはありません。追加の情報が求められています。

(2) 目的

5-ALA-PDD 併用 TUR-BT 時の周術期情報を統計学的に解析・評価し、より安全で円滑な周術期管理に役立てることが目的です。また得られた結果は、医学向上に広く役立たせるために、学会などで発表する予定です。

(3) 方法

2018 年 1 月 1 日から 2020 年 5 月 31 日までに当院で施行された TUR-BT 症例を対象に、後向き調査をおこないます。周術期情報をカルテから収集し、5-ALA-PDD 併用 (ALA 群) と 5-ALA-PDD 非併用 (非 ALA 群) の 2 群間で、周術期の循環動態や関連因子について統計学的に比較検討します。

個人情報の取り扱い

本研究の目的を達成するために必要な範囲を超えて診療録からの個人情報を取り扱いません。また、得られた情報は個人が特定されないように匿名化した上で、細心の注意を払い安全に管理します。なお、本研究により得られる研究結果は個人が特定されることはない形でまとめます。

連絡先

東京警察病院 麻酔科

春山直子、紫藤明美、赤坂徳子、野本万祐子、安部彩子、小安永佳乃、高田純子、小池由美子、稲野千明